Ⅱ　本時の学習（○／○）

１　ねらい ※身に付けさせたい資質･能力をもとに設定する。

２　展開

ICT活用の例

＜可視化＞＜共有＞＜焦点化＞＜試行錯誤＞＜思考の整理＞

＜データ活用＞＜データ蓄積＞＜主体的な学びの促進＞

＜基礎・基本の定着＞＜学習の個性化＞＜指導の個別化＞等

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 主な学習活動☆児童〔生徒〕の意識 | 指導上の留意点及び支援･評価 | 時間 |
| １　めあてを明確に捉え、学習の見通しをもつ。 解決すること「なぜ、～か（だろう）」「どのように～か」など解決の方法「～をして」｢～を通して｣「～を用いて」など活動･テーマ（文末を）「～してみよう。」などのように記述する。※児童生徒が学習活動の見通しが明らかになり、本時のゴールの姿が明確に想起できるような言葉となるよう意識する。☆ええ、なんでだろう。☆今日は、○○について学習するんだな。☆調べてみたいな。 ☆この方法が使えそうだ。〈めあて〉※ねらいをもとに設定する。 | ※児童生徒から○○のような　気付きや○○に関する疑問　を引き出し、既習事項を振　り返るなどしてめあてを設　定する。※本時の学習の見通しをもて　るよう、めあてを提示する。 | ５ |
| ２　本時の課題について個別で考え、ワークシー　トに記述する。 (できれば)ＩＣＴの活用について明記する。☆こうすればできるんじゃないかな。☆○○が答えだな。☆理由は○○だ。３　考えたことを共有し、考えを深める。☆○○になるんだな。 ☆△△になる場合もあるんだ。☆でも、僕の考えは○○だ。△△という考えもあ　るんだ。☆Ａ君と考え方は同じだけど、理由が違うな。☆△△という理由もあるんだ。☆みんなの考えの共通する部分は○○だな。文末表現は｢促す｣｢提示する｣｢想起する｣｢比較する｣｣｢問いかける｣｢称賛する｣　など何を学んだか　「わかったこと」｢気付いたこと｣｢できるようになったこと｣「まだ、わからないこと」　などどのように学んだか　「どのように解決したか」｢どうしたらできたのか｣　など※児童生徒の言葉で記述する。 | ※スケッチの代わりに写真を撮る。＜データ蓄積＞(生活科)※自己の課題を把握する場面で動画撮影機能を使い、自分の姿を客観的に捉えさせる。＜可視化＞(体育科)※△△についての考えを深め　られるよう、○○について考えている児童生徒を意図的に指名する。※全員で検討できるよう、○○についての賛否を他の児童生徒に問いかける。　(広げる･つなげる・深める) | 30(35) |
|  | 【評価項目】思～について○○を考え、表現している。(発言、プリントの記述) |  |
|  |
| ４　本時のまとめをする。☆○○は△△だから□□になるんだな。 | ※児童生徒の言葉を生かして　まとめる。 | 10 |
| ５　めあてに沿って振り返る。〈振り返りの姿〉☆△△だから、○○ということがわかった。（できるようになった。）（例）・めあて、まとめが示されている・児童生徒の思考の跡が残っている・つながりや関係性が見える・児童生徒の考えに対する評価が示されている・思考や発想のヒントになる　など |  |
| ６　次時の予告を知る。 |  |

３　板書計画

※指導案例(道徳科、学級活動含む)は、吾妻教育事務所Ｗｅｂページに掲載しています。